

第55回腎癌研究会記念大会 開催報告

このたび、日本医科大学医師会より、私が大会長を務めさせていただきました第55回腎癌研究会記念大会の開催に際し、格別のご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。ご助成いただきました20万円は、本研究会の円滑な運営および学術的内容の充実に資するよう、有効に活用させていただきました。

本大会は、2025年7月5日にホテル椿山荘東京にて開催され、全国各地より316名のご参加をいただきました。これは東京開催としては過去最多の来場者数であり、また一般演題の登録数も過去最多となる83題に達し、腎癌領域における多岐にわたる研究成果が発表され、活発な討論が行われました。参加者からも非常に好評を得るなど、大変有意義な学術集会となりました。

本研究会がこのような成果を収めることができたのは、ひとえに日本医科大学医師会の皆様の温かいご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

今後も腎癌研究会では、臨床研究およびOMICS解析を中心とした基礎研究の推進に努め、学術の発展と、患者さんへのより良い医療の提供に貢献してまいります。

以上、簡略ながら開催のご報告と御礼を申し上げます。

令和7年7月7日

第55回腎癌研究会記念大会 大会長

日本医科大学医師会 会長

日本医科大学付属病院 泌尿器科 特命教授

木村 剛

写真1. 第55回腎癌研究会 記念大会 開会式の様子
本大会の開会にあたり、大会長として私が登壇し、開催の宣言を行いました。
多くの参加者にご臨席いただき、盛会の幕開けとなりました。



写真2. 研究会主導セッション1「進行性腎癌に対する治療の選択」より

MD Anderson Cancer CenterのEric Jonasch教授をコメンテーターに迎えた本セッションでは、本学の武田隼人助教（向かって左から3人目）が演者として登壇しました。本セッションは全編英語で行われ、課題は「Inflammatory sign or serum marker and Tx」という高度なテーマでしたが、武田先生は症例提示から考察、結論に至るまで明快な構成で発表を行い、腎癌研究に造詣の深い参加者から高く評価されました。

